

觀楓と秋の自然物採集を兼ねて

膳 眞 規 子

天高く澄み渡り風もさわやかな秋が来て、木々は紅葉の季節となりし今日此頃、毎秋近畿の觀楓をなす身の本年は在京中を幸に、豫てあこがれの秋の日光の山水美の探勝を兼ねて自然物採集を思ひ立ち、老姉妹連れ立ちて出かけました。此兩婆一人は視力弱く一人は少しく聾で、兩人の感覺作用を合して一人前の作用を全ふする不具者の旅行で有りますので、どうか皆様愍然に思召下さいまし、此老婆の旅行も昭和の御代の有難さ、交通機關の完備の今日汽車自動車の便により、少しの苦痛もなくらくに見物する事が出来て結構で御座い

ます。上野から汽車で日光に着き自動車で日光の町を経て、大谷川の清き溪流に架した丹亞の神橋を見つつ、其隣の日光橋を渡り清き溪流を左にして、北白川宮の御別邸や、田母澤御用邸や、大學の植物園の前を通りて馬返へしに至り、此處より小型の登山自動車に乗り提へ山路にかかるに、兩方の連山の紅葉の薄き濃き秋の錦を織りなせる其偉觀の美はよく筆に表はしかたく、唯奇麗の語を繰り返すばかりなり。豫て日光の紅葉は日本一なるを聞き及び居りしが其至言を感ず。

進んで山頂大平に至る。此處は山道を終りたる

平地で此處に本年夏、華嚴の瀧壺に下る五百三十尺のエレベーターが出来僅か五十秒で昇降する事が出来、昔時は五郎兵衛翁が開きし嶮はしき道を下り中途數條の凄じき水勢の白雲の瀧の見しづきのかかれる鵲橋を渡り又峻阪を上下して、華嚴の瀧に對する五郎兵衛茶屋に達す事の容易ならざりし事を思ひて全く夢の様な感あり、併し此のエレベーターと言ひ、登山自動車と言ひ苦痛なき遊散は

旅として興薄さを思ふ。矢張徒歩で風光と親みつ行く方面白くあるまいか、當夜は中禪寺湖畔に宿り其靜かなる幸の海其紅葉の山に薄霧立ちたる夕景色、又曉の殘月の漣よする湖面を照らせる様の得も言はれざる風光なりし、——翌朝は又自動車で湯元に向ふ道は殆んど平坦で——菖蒲ヶ濱に至る數丁の間は湖岸に沿ひ行く此間の紅葉は最も美しく、馬返へしより中禪寺間は山による紅葉、中禪寺湯元間のは平地峽地による紅葉なり。戰場ヶ

原の廣さを過ぎて湯元温泉地に着く。此地を圍む三方の山は紅葉の見頃の少し過ぎたるも尙風致あり一浴して其温泉の噴出處を見之れより、自然物の採集をなす、楓櫻榛其他の紅葉を主として諸雜木の葉及び熊笹の大小高山植物等を採集す殊に楓葉の大きく二寸乃至三寸で他地方では見られざる珍らしき感あり。此の大なる紅葉が一層見ばへある特色の美觀を裝ふ者ならんか。

此處に五人の子供の美しき紅葉を拾ひ溪流に流して遊べるあり、其餘念なき態に見とれ居りしが終に其仲間に入り自然物で種々の利用玩具を作つて與へました。笹の舟や笹の三再結びや楓の大なるものに其小なる葉をはり付けていろいろの形を作りました處、子供等は大に喜び、よいお婆さんと親しみまして別れを惜みまして自然物を澤山御土産にくれました。尙自然物玩具化して與へんと思ひしも自動車出發の時間迫り愛らしき山の子供に

週		四		第	
金	木	水	火	月	
卵ト肉	果物	牛乳ニ於テ 水ノ効用	野菜ト豆	オ魚ト 香ノ物	
砂箱ニ於テ、親鳥ト ヒヨコ 卵ノ集 卵ノ製作(粘土)	リンゴ、ミカン、ブ ドー 粘土ニテ製作シクレ ヨシチ塗ル	牛乳ノビン スプン、コーヒータ 碗 コップ	大根、人参、ネギ、 牛蒡、蓮根、玉菜、豆	魚ノ各種、魚船、鯛 籠、オ皿、魚ノ網	
親鳥トヒヨコ	果物ノ寫生	牛乳ト茶碗 水サシトコップ	オ野菜ト豆ノ寫生	オ魚ノ繪	

土	
健康ノ肉體 ト病氣	汽車、健康ノ國へ行 ク 汽車、汽車ニハブ ラシ、牛乳、リンゴ オサカナ等チ積ンデ 行ク
	病氣ノ子供ノ繪 健康ノ國へ行ク 汽車

(四八頁よりつゞく)

惜しき別れを告げて歸途につきました。

實に斯く天與の山水美界に自然物を豊富に弄ぶ
事の出來る山の子供等の恵まれた境遇を思ひ、都
會の子供に之れを分ち與へられぬ事を氣の毒に思
ふて止まず。心ある保育者は此自然趣味によりて
自然物採集を心がけられ一方經費を節限し一方幼
兒に觀迎せらるる保育を爲されん事を希望す。

(昭和五年中秋)